

第4回 苫小牧市男女平等参画を推進する市民会議 会議録（概要）

- 1 日 時 令和2年2月14日(金) 13:30~15:00
- 2 場 所 苫小牧市役所 9階会議室
- 3 出席者 別紙のとおり

4 会議概要

●市長挨拶

大変お忙しい中、ご参集いただきまして誠にありがとうございます。市民会議も4回目ということになりました。第1回、2回、3回、それぞれの経過、プロセスを踏まえまして今日の第4回市民会議ということになりますので、よろしく願い申し上げます。

今日のアジェンダにもありますが、ひとつの目的は、これまでの経過を踏まて、**目標・行動指針（ミッションステートメント）**についてご意見をいただきながら、できれば合意形成を図りたい、ということが一つ。それから、**令和2年度市民会議の事業について事務局提案を軸に色々ご意見いただいて、方針を決める**ということが主な今日のテーマとなります。世の中新型コロナウイルスのメディアシェアが非常に高く、しばらく続くかと思いますが、ウポポイの4月、7月オリンピック等に向けた影響が出なければいいなと思っております。世の中のトレンドはトレンドとして、苫小牧としてこの男女平等参画というテーマを具体的にコツコツと、ひとつひとつ積み上げていくミッションにしていきたいと考えております。

もう一点は、ジェンダーギャップがまたランクダウンしてしまったという実態がありますので、これを頭に入れながら、このテーマにしっかり取り組んでいかなければいけないと思っております。ただ、SDGsであります、これは2015年に国連で全会一致で採択され、こんなにはやくこの概念が広まるというのは誰も予想していなかったのではないかと思います。SDGsの、17の目標・169のターゲットがありますけれど、この中のNo.5にジェンダー平等を実現しようという明確な目標が位置づけられておりまして、こういうことそのものが我々にとって、日本にとって追い風になるのではないかと考えております。色々な流れの中で、目標・行動指針についてできれば決定をしたいと考えております。

【次第 3.目標・行動指針（ミッションステートメント）について】

●事務局から二つの目標・行動指針（ミッションステートメント）を提案

●質疑応答

・市長

これまでの経過、みなさんのご意見等を踏まえまして、案として二つの協働ミッションの説明がありました。この期間ターゲットは令和2年、3年の2ヵ年になります。様々な角度からミッション1・2について取り組んでいこうということですが、ただいまの説明に対して、ご意見・ご質問等ございませんか。

○メンバー：

今回の会議に先立って、4人の女性議員さんに、アイデアをいただきました。議員28人に対して女性議員が4人という割合が、やはり少ないということをそれぞれ感じていて。例えば、議会欠席理由の項目に「育児」がなかったり、病気で通院は「その他」の括弧書きの中にあるんですが、妊娠して通院するのは病気ではないという扱いです。これからは若い女性議員が出てきて出産をするときに、議員の活躍できる場所として環境が整っているというアピールをするためにも、この辺りの整備が必要ではないか、という話ができました。それ以外にも、女性がもっとチャレンジできるような企業での理解や、地域、そして何より家庭の中での理解がより進むような、何かしら具体的な動きが必要だろうと意見が出ました。来年度の予定されている EXPO にも、まだ議会の合意形成を図っているわけではありませんが、議会ブースを出させてもらったらと、そんな意見も出ていました。

○メンバー：

二つのミッションが抽象度の上である程度同レベルでないと扱いづらいのかなと思います。先ほどおっしゃられた日本のジェンダーギャップ指数が低い理由は政治分野であったりするわけです。政治に限る必要はないですが、例えばミッション1を「女性が今までよりもっと意見を発信しやすい環境を作る」にするとか、何かやっぱり、同じレベルになる工夫はすべきなのかなと思いました。

・市長

二つのミッションがリンクするような工夫が必要ではないかということについてはその通りで、あまりにも違いすぎると印象を与えるかもわかりません。

しかし、意識を変えていくことが必ず必要になってくる。それは、具体的な施策展開を進める中で意識が変わることもあれば、最初に意識を変える必要性への気づきがあって、その中で具体的な取組みにとらえていく、この両辺があると思っています。ミッション1のほうで意識づけ、気づきみたいなものを一方で推し進めながら、ミッション2で具体的な施策展開にチャレンジするという考えの整理で頭の中に入れなければ、と思っていたところです。

○メンバー： ミッション2の「サービス」という表現について

企業や行政任せで、一般市民は“受け手”という印象を受けるのかなと思います。例えば、「～預けられる環境づくりを増進する」とか、地域と企業と行政の3者の協働ミッションには気になる言葉でした。

○事務局

これは第3回市民会議におきまして、ひとつのグループから発案いただいたものです。今、おっしゃっていただいたように、市民会議にいらっしゃる団体、企業の方、それから子育て中の方、地域の方、みんなが考えられるものかと思っております。

もし今この場で、おっしゃっていただいたような「環境を増やす」、あるいは「場を増やす」などといったように文言の修正の合意をしていただけたらと思います。

○メンバー：

私もサービスというよりは「環境」とか、「場」、「機会を増やす」とか、そういう言葉の方がいいと思います。企業や行政以外のところで、ママたちが立ち上げた団体や、ファミリーサポート、金銭も絡まない近所のお付き合いとか、そういう意味合いも含むのでいいと思います。

○メンバー： ミッション2の「いつでも」という表現について

基本は親と子の生活時間を大切にすることがまず大事です。夜中まで保育園を開くということになると、子どもの方の利益を損しているわけですので、十分留意すべきだと思います。この「いつでも」という言葉がどこまでを指すのか不明瞭なので、言葉を取るか、別な言葉をつけるのがいいのか、疑問に思ったところでした。

○事務局

第3回目のグループ協議のときにはこの「いつでも」という言葉がひとつのキーになっていたという記録がございます。土曜、日曜に働いている方が多く、もう少し預けられる時間が延びることによって働きやすい方が増えるのではないかという意見も出ました。「いつでも」という表現に関しては、今後この会議の中で色々な議論をしていくことが大切ではないかと考えております。言葉尻だけとらえてしまうと、24時間365日か、というようになりませんが、決してそういう意味ではないということをメンバーおひとりおひとりの中でとらえていただければと考えて提案いたしました。

○メンバー：

「いつでも」ときたら「どこでも」というフレーズになるのかなと思ってました。「いつ

でもどこでも預けられる環境の街苦小牧」とか。「やさしい街苦小牧」というのを入れてもいいのではないかと思います。そうすると苦小牧の街をアピールできるのではないかと、それがひとつ。

それと、「親から子へ」というのが薄れていってると感じているんです。地域の中でも高齢化が進んで、高齢者が自治を運営しているという中で、そして自分のことは自分で、防災の「自分の命は自分で守る」という第一の原則、これがこれから地域の高齢者が生きていく中でもなっているのかとひしひしと感じている毎日なんです。この子育てのところも、「親から子へ」というところを、いつでも子育ては保育園に預けることだけではないのではないかと、そういうのを入れたほうがあたたかみがあるのかと思いました。

・市長

我々がやろうとしていることのベースには、基本的には家庭があって、そこはやはり親子の関係の中に軸がある。そこが当然の基礎部分はそうだということを前提にしながら、今の時代の苦小牧に欠けているものをこれから男女平等参画という観点からこのミッションに位置づけていく、というふうに考えないと、全部を一緒に考えると難しくなる。そして限られた制約の中でいかに子どもを守っていけるのかという風に考えた方が現実的で、しかし現状はそこまでも至ってない、だからまだ欠けているところを埋めていく。埋めなきゃいけないところはまだまだたくさんあると感じています。「いつでもどこでも」ということになると、かなり現実的ではないような気がするんですけどもどうでしょうか。

○事務局：

基本的にはこれまでの議論を踏まえて、第3回のグループで提案された目標を尊重することを大きな基本としたいと思っています。「いつでも」というニュアンスでは、親がいつでも子どもを預ける、なんでもいいのかという話になりますので、例えば「親が必要に応じて」とか「必要なときにいつでも」、安心して預けられる「環境を整備する」とか「環境の場を増やす」、「機会の場を増やす」そのような言い回しであればみなさんいかがでしょうか。

・市長

事務局として整理しながらラフな案を出しています。最終的には座長に一任してもらって、今日の意見を聞いてビシッとした文章をつくりますので、安心していただければと思います。それぞれの視点の中で、ひとつの言葉から受けるイメージは違ってくると思います。できるだけ色々な受け取り方をされないようなフレーズにすることも必要だと思います。

今日は大きく分けて、まずミッション1と2の表現のギャップのようなものへのご意見がありました。もう一つは、ミッション2の表現についてのご意見が複数ございました。その他もしなければ、今日のご意見を踏まえて、またみなさんの中にこういう案でどうでしょうかということ、恐らく個別になると思いますが、確認させていただいて、4月から実際

このミッションでスタートしたいものですから、そういった意思決定のプロセスについてもご理解いただきたいと思います。

○メンバー：

前回ミッション2の素案を出したグループにいたので、補足させていただきます。子育て世代の方がしっかり自分の子どもと向き合えるようにしたいという気持ちは当然ある中で、働き方が多様になり、働く時間も色々なパターンがあったり、パートナーが病気だったり、どうしても子どもを預けないと働けないという場合もある。働いていなくたって、しっかり子どもと笑顔で向き合えるように休息の時間のためにも、こういった預けられるところがあるといいよね、という話があっけいきた、という経緯がありました。例えばこういうことがきっかけになってご近所づきあいとか、離れていても仲間内で預けられるようになったら、この目標に対しての効果として生まれるのではないかと。広い意味での意見として出たので、誤解のないように言わせていただきました。

・市長

その他ご意見無ければ、今日いただいたご意見を踏まえまして、全体、特にミッション2の表現については変更になりますが、座長に一任していただきたいと思います。よろしいですか。

(承認の拍手)

ではそのようにさせていただいて、訂正案についてみなさんのご意見を聞かせていただきたいと思います。それでは、内容は訂正になりますが、この二つのミッションで令和3年度までの2年間、チャレンジしていきたいと考えておりますので、よろしければ、承認の拍手をお願いしたいと思います。

(承認の拍手)

【次第 4.令和 2 年度市民会議事業について】

・市長

令和 2 年度市民会議事業について、本来であれば、そのフレームについてこの市民会議で決めていきたいと思っていましたが、令和 2 年度については、これを事務局から提案させていただきます。また、事業予算については 3 月の議会審議を経なければならず、予算議会の結果次第になります。

●事務局から事業概要（名称・日時・会場・分類・EXPO 応援団）について提案

●質疑応答

・市長

私からポイントですが、「地域と企業と行政の協働ミッション」であることに資する事業の展開の第一歩が、9 月 19 日「自分らしさ応援 EXPO」ということです。そういうことも踏まえて、ご意見いただければと思います。

○メンバー：

先ほど議会ブースをつくるというお話もありましたが、議会に限らず、様々な市民団体のブースもどんどん増やしていくことで、意識を変えることのアピールができるかと思いました。とてもおもしろそうな企画だと思っています。

○メンバー：

この EXPO は、直接ミッション 2 にはつながらない、ミッション 1 を達成するための手段という理解でよろしいでしょうか。

○事務局

この EXPO のアイデアの中には色々なことが含まれると思いますので、ミッション 2 に関するものが無いとは考えていません。ただおそらく、ご想像のとおりミッション 1 のほうが比重は大きくなるかは考えています。ミッション 2 については、現状を踏まえながらこの市民会議で協議していくといったようなことでミッション 1 も 2 も達成していきたいと思っております。

○メンバー：

事務局案の分類ごとに、検討を進めるというような説明があったかと思います。担当ごとに深堀りしていくプロセスは必要かと思っておりますけれども、上位として全体を見ていく、司る組織はあるという理解でよろしいでしょうか。

○事務局

この市民会議をそのような場と想定しています。今のところ6月、8月に開催したいと思っております。

・市長

あくまでも、市民会議は単にこういう事業の実行委員会ものではないと、もっと軸になるのがこの場でありますと、こういう主旨でご理解いただければと思います。例えば、ミッション2についても分類案のA(家庭・地域・子育て)にもC(ダイバーシティ)にも入る、そういう意味ではミッション1もミッション2もかなり色濃くカバーされるのではないかと思います。

○メンバー：

分類案Bの「起業出展ブース」はこの「起業」ですか？

○事務局

こちらの案として書かせていただいたのは「起こす」方の「起業」です。女性が活躍しているハンドメイドですとか、福祉ネイルなどのアピールブースというのも、女性活躍の中であるのではないかとという案として一つださせていただいた次第であります。

○メンバー：

私の企業では、このミッション2が大々的に報道された場合とても喜ぶと思います。うちには女性職員が何百人といまして、やはりこのミッション2で本当に困っていることと、老後の年金問題とかも言われています。そうした場合に、扶養の範囲で、という方もいらっしゃいますけど、もし扶養の範囲で働いた場合に年金はどうなるんだろう、と心配してる人もいます。ですから、人材を集めるには30代、40代の子育て世代が非常に重要な役割を担っています。ぜひこのミッション2が苫小牧で行われたらもっとみなさん関心をもって、希望も持てるのではないかと考えております。

・市長

それでは、微調整はこれからたくさんできますけれども、この令和2年度の事業設定について、よろしければ承認の拍手で承認をしていただければと思います。よろしく申し上げます。

(承認の拍手)

- 事業アイデアについて、事前を送付していたアイデアシートの貼り出し・共有
- アイデアについて質疑応答

○メンバー：SDG s のカードゲームですとか、人間すごろくはどんなことをやるのでしょうか。

○メンバー(回答)：

体を使いながら、これからどういう社会が求められているかを大人から子どもまで一緒に考えられるゲームです。

○事務局 (回答)

カードゲームは事務局案で、子ども向けカードゲームの SDG s 版のようなものです。ゲームの中で、例えばお金を稼ぐとか、社会性を養うとか、それぞれにミッション・役割があり、進めていくと実は地球の状態が、森林がなくなっていたとか、社会環境が悪くなって子どもが銃をもって戦争するような状態になってしまったとか、じゃあその後どうするのか…といったことをカードゲームを通じて体感してもらうというゲームです。認定のファシリテーターがいるのでその方をお呼びしてゲームを開催するという案です。

○メンバー： 男性産前講座というものがどういうものなのか非常に興味があります。

○メンバー：(回答)

現状、市などが主催の産前講座はあるんですけど、ファザーリングジャパンで、講座に出た人・出なかった人にアンケートを取りました。産後実際に困ったことの上位に入ってくるのが、夫婦間の関係であるとか、いかに家族で子育てを進めていくかということでした。それを受けて産前講座も、アップデートが必要なのではないかと考えて、ファザーリングジャパン式のクラスもやっていますが、実際にお父さんが一緒に育児をするにあたって、どういう風に育休を取るのがいいんだろうとか、そのための職場のコミュニケーションといった面にもスポットを当てた上での講座の充実が今後必要になってくるのではないかと考えています。ファザーリングジャパンでも東京ですが、自治体や企業向けに、こういう講座もできますという相談会もやっているのでも、来て下さる企業の方とかが、実際に男性育休を進めるにあたって企業内の男性向けの講座をやっていただくのはどうかと、そういう提案等もしていただければなと思ってる案です。

○メンバー：

事務局案の「市長とチョット・ジェンダー・チャット」はどんなことでしょうか。

○事務局（回答）

気軽に子育て世代のお父さんお母さんとか、働きざかりの、30代、40代の人たちが市長と話をするという企画です。その年代は、市政が遠いし、市長も遠い存在のように思っている人もいます。そういう人たちに市長とちょっとでも近づいてもらって、そのついでに男女平等参画についても知って帰ってもらえたらいいな、という思いで提案しました。

●貼り出したアイデアに

「いいね！シール（＝いいね、おもしろそう！）」

「ウオント！シール（＝実際にやりたい、携わることができそう）」を使って投票。

●事務局より投票が多かったアイデアの紹介

・市長

以上を踏まえて、事務局の方で9月の事業案を具体的に作成させていただくということでご了承いただけますか

（承認の拍手）

・市長

では、そのようにさせていただきます。

歩きながら考えながら9月に向けて精度を高めていきたいと思います。時間の面で運営上不手際がありましたこと、重ねてお詫びを申し上げまして、最後のご挨拶にさせていただきます。今日はありがとうございました。